株式会社ATグループ

2022年度
(2022年4月～2023年3月)
環境経営レポート

グループ SDGs 包括目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

EMS

CARBON NEUTRAL CO2 NEUTRAL

発行：2023年9月20日

AT group

《 目 次 》

１．組織の概要 …… 1
２．認証の対象範囲 …… 2
（１）エコアクション２１の対象範囲
（２）環境管理最高責任者および
環境管理統括責任者
（３）2022年度エコアクション２１
推進体制・組織図
（４）推進体制の役割・権限・責任
３．環境経営方針 …… 5
（１）ＡＴグループ環境基本方針
（２）具体的な推進事項
４．2022年度　環境経営計画 …… 6
５．環境経営目標および実績評価 …… 7
（１）ATグループ全体
（２）オートタウン高辻
６．環境経営の取組結果と評価 …… 9
７．環境関連法規制の遵守および評価 …… 16
（１）適用となる環境関連法規
（２）環境関連の法規違反・苦情の有無
８．代表者による全体評価と見直し …… 17
９．2023年度の環境経営計画 …… 18
（１）環境経営目標
（２）CO_2削減に向けた取組事項
（３）2023年度エコアクション２１
推進体制・組織図
【参考資料】
2022年度グループ事業会社の取組結果 …… 21

１．組織の概要

（１）事業所名および代表者
株式会社ＡＴグループ
代表取締役　山口　真史

（２）所在地
〒466-0057
愛知県名古屋市昭和区高辻町６番８号
ATG南館８階

（３）事業活動の内容

下記の会社の株式を保有し、その会社の経営管理およびそれに付帯する業務

《エコアクション２１》
・愛知トヨタ自動車株式会社　・トヨタカローラ愛豊株式会社
・ネッツトヨタ愛知株式会社　・ネッツトヨタ東海株式会社
・トヨタＬ＆Ｆ中部株式会社　・愛知スズキ販売株式会社
・株式会社アトコ／株式会社トランサット
・トヨタ情報システム愛知株式会社
・愛知クレジットサービス株式会社
・株式会社ＡＴビジネス　・ＡＴグループ健康保険組合

《ISO14001》
・株式会社トヨタレンタリース愛知
・トヨタホーム愛知株式会社

（４）事業の規模（2023年３月　※連結値）
売上高　379,952百万円
従業員数　6,662人

２．認証の対象範囲

（１）エコアクション２１対象範囲

■事業活動：グループ会社全体の経営戦略立案・各社の経営統括と運営、新車・中古車の販売、自動車の整備・修理、産業車両・物流システムの販売、情報システム開発・運用、旅行代理店業、グループ各社の管理委託業務

【オートタウン高辻】	会社名	拠点名	主な事業または用途
ATG南館	㈱ATグループ	本社	グループ各社の経営管理
	愛知トヨタ自動車㈱ トヨタカローラ愛豊㈱ ネッツトヨタ愛知㈱	本社	自動車販売拠点の統括管理
		高辻店	自動車販売
	ネッツトヨタ東海㈱	本社	自動車販売店の統括管理
	トヨタL&F中部㈱	本社	産業車両・物流システム販売拠点の統括管理
	トヨタ情報システム愛知㈱	名古屋事業所	システム開発
	㈱ATビジネス	本社	グループ各社の関節業務
ATG北館	―	―	会議室
TSC	㈱ATビジネス	高辻サービスセンター	自動車整備・修理

会社名	拠点数	会社名	拠点数
愛知トヨタ自動車㈱	９５	トヨタカローラ愛豊㈱	６４
ネッツトヨタ愛知㈱	３０	ネッツトヨタ東海㈱	２０
トヨタL&F中部	２８	愛知スズキ販売㈱	１７
㈱アトコ／㈱トランサット	１７／３	愛知クレジット㈱	1
トヨタ情報システム愛知㈱	1	㈱ＡＴビジネス	5
ＡＴグループ健康保険組合	1		

★2023年10月　対象範囲拡大予定

会社名	拠点数
トヨタホーム愛知㈱	１６
トヨタレンタリース愛知㈱	７１

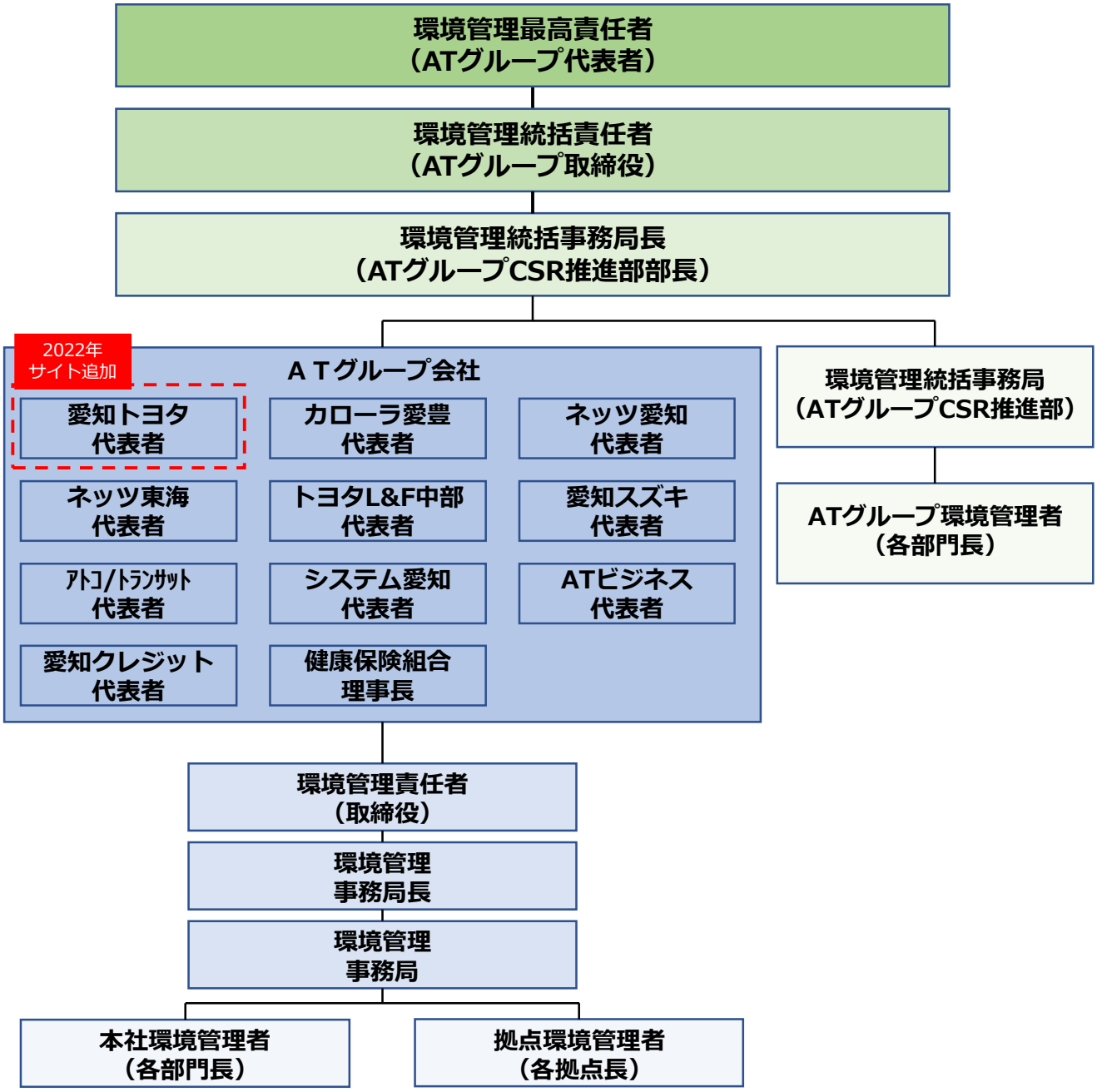
※㈱アトコの食品部門は2024年10月に拡大予定

（２）環境管理最高責任者および環境管理統括責任者

環境管理最高責任者　：　山口　真史

環境管理統括責任者　：　武内　優

（３）2022年度　エコアクション２１推進体制・組織図



（環境管理事務局　担当者）
㈱ATグループ　総合企画部　総合企画課　子安　芳嗣
（連絡先）052-626-4389

（４）推進体制の役割・権限・責任

グループ全体の推進に関わる役割・責任・権限	
環境管理最高責任者	・環境経営に関する統括責任
環境管理統括責任者	・環境経営に関する統括責任 ・環境推進の実施に必要な人、設備、費用、時間を準備 ・環境管理統括事務局長を指名 ・環境方針の策定、見直しおよび全従業員への啓蒙 ・環境経営レポートの報告 ・環境目標、環境活動計画を報告 ・全体の評価と見直しを実施
環境管理統括事務局長	・環境推進体制の構築、実施、管理 ・環境関連法規等取りまとめ表を承認 ・環境経営レポートの確認 ・環境目標、環境活動計画を確認
環境管理統括事務局	・環境管理統括事務局長の補佐、会議の事務局 ・環境負荷および環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等の取りまとめ表を作成し遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開

各社の推進に関わる役割・責任・権限	
代表者	・環境経営に関する統括責任
環境管理責任者	・環境経営に関する統括責任 ・環境推進の実施に必要な人、設備、費用、時間を準備 ・環境管理統括事務局長を指名 ・環境方針の策定、見直しおよび全従業員への啓蒙 ・環境経営レポートの報告 ・環境目標、環境活動計画を報告 ・全体の評価と見直しを実施
環境管理事務局長	・環境推進体制の構築、実施、管理 ・環境関連法規等取りまとめ表を承認 ・環境経営レポートの確認 ・環境目標、環境活動計画を確認
環境管理事務局	・環境管理事務局長の補佐、会議の事務局 ・環境負荷および環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等の取りまとめ表を作成し遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成
環境管理者	・自拠点（部門）における環境方針の周知 ・自拠点（部門）における環境推進活動の実施 ・自拠点（部門）の従業員に対する教育訓練の実施 ・自拠点（部門）に関連する環境活動の報告、記録の作成 ・自拠点（部門）の問題点の発見、是正、予防処置の実施
従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決定事項を守り、自主的かつ積極的に環境活動へ参加

３．環境経営方針

（１） ＡＴグループ環境基本方針

ATグループは、地域に密着した企業として、あらゆる事業活動に伴う環境負荷を低減することで環境保全に努めるとともに、積極的な環境投資や従業員の環境意識向上を図ることにより、「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現に寄与します。

◆環境関連法令の遵守

◆積極的な環境負荷低減活動

◆パートナーを巻き込んだ環境活動推進

◆環境教育の持続的な実施

◆環境関連情報の開示

2015年4月22日制定
2023年3月17日改正
株式会社ATグループ
代表取締役社長　山口　真史

（２） 具体的な推進事項

環境関連法令の遵守

・環境関連法規制、条例を定期的に確認し遵守します

積極的な環境負荷低減活動

・エネルギー使用量、CO_2排出量、プラスチック製品の排出削減に取り組みます

パートナーを巻き込んだ環境活動推進

・お客さまやお付き合いのある協力会社のみなさまにも私たちの活動をご理解いただきながら活動を推進します

環境教育の持続的な実施

・教育プログラムによる従業員教育を実施します

環境関連情報の開示

・環境活動に係る情報についてHP等を通じて開示します

4．2022年度　環境経営計画

① 環境法令の遵守

・環境関連法令の改正情報についてWEBサービスを使用し定期的に監視する
・法令改正情報を随時伝達し情報共有する

② 二酸化炭素排出量の削減

《電力使用量の削減》
・節電啓蒙ポスターの掲示
・不要照明の消灯
・室内温度を基準とした空調設定（夏季：28℃・冬季：20℃）
・クールビズ、ウォームビズの推進

《燃料使用量の削減》
・社有車全てエコカーを使用
・エコドライブの推進

③ 廃棄物創出量の削減

・各所ごみ箱の設置数を制限し、発生抑制に努める
・ごみ分別廃棄ルールを定め、分別廃棄を実施

④ 水使用量の削減

・手洗い時の流し放しをしない
・施設設備は節水タイプを優先して使用

⑤ リサイクルの推進

・古紙は品目別に分別廃棄し、リサイクル可能な回収業者に委託
・資源ごみ（びん、缶、ペットボトル）はリサイクル可能な回収業者に委託

⑥ 社会貢献活動の推進

・毎月１回、地域貢献として近隣の清掃活動を実施
・地域への貢献活動を積極的に実施

⑦ 環境教育の実施

・グループ統一、環境マネジメント「EMSﾌｧｲﾙ」を活用した包括的な管理を実施
・環境教育ツールを活用し、従業員教育を継続的に実施

⑧ 次世代自動車の推進

・低炭素社会へ貢献するため、次世代自動車の使用および販売を推進
（次世代自動車＝HEV、PHEV、BEV、FCEV）
・お客さまへ自動車使用に関わる「環境影響」をご説明し、次世代自動車を率先販売

＜認証拡大途中であるため、拡大が完了する2023年度まで記載の活動を継続する＞

5．環境経営目標および実績評価

（1） ATグループ全体

EA21環境経営取り組み項目			基準年度実績	年度目標			2022年度実績	
			2019年度	2022年度	2023年度	2024年度		
二酸化炭素排出量の削減	〔目標値設定基準率〕			基準年度 実績値比 1%削減			実績	対目標比
	エネルギー使用量（原油換算値）	Kl	13,077	12,946	12,946	12,946	12,344	95.3%
	電気（※1）	kWh	39,020,826	39,422,618	39,422,618	39,422,618	36,607,433	92.9%
	都市ガス	㎥	693,611	686,675	686,675	686,675	546,027	78.7%
	LPG	㎥	141,781	140,363	14,363	14,363	14,718	86.7%
	ガソリン	L	1,836,113	1,817,752	1,817,752	1,817,752	1,679,940	92.4%
	軽油	L	996,645	986,679	986,679	986,679	819,841	83.1%
	二酸化炭素排出量	t-CO_2	26,179	26,094	26,094	26,094	24,616	94.3%
廃棄物排出量の削減（※2）	〔目標値設定基準率〕		基準年度 2022年度	対前年 1 %削減			実績	対目標比
	一般廃棄物	t	532	532	526	521	532	—
	産業廃棄物	t	6,493	6,493	6,428	6,364	6,493	—
水使用量の削減	〔目標値設定基準率〕			基準年度 実績値比 1%削減			実績	対目標比
	水使用量	㎥	222,641	220,415	220,415	220,415	172,136	77.3%
化学物質の削減	化学物質については、数値目標設定はしないが、PRTR第1種特定物質を含まない製品へ順次切替えていく							
古紙資源化の推進	〔目標値設定基準率〕			再資源化			実績	対目標比
	古紙資源化率	%	100	100	100	100	100	—
次世代自動車の推販（自動車販社全体）（※3）	〔目標値設定基準率〕			基準年度 実績比 1%増			実績	対目標比
	販売比率	%	40.9	41.9	42.9	43.9	48.2	115%

《エネルギー使用量に関する統括》
・全体的にエネルギー使用量の削減ができたので、今後も削減に向けて引き続き努力していく。

※１ 電気の「二酸化炭素排出量」はトヨタエナジー排出係数を使用（2019年度 0.466kg-CO_2/kWh）を使用。
※２ 「一般廃棄物・産業廃棄物排出量」の削減については、データが集約可能になった2022年度を基準とする。
※３ 「次世代自動車販売」はグループの自動車販売会社が対象。

（2）オートタウン高辻

EA21環境経営 取り組み項目			基準年度実績	年度目標			2022年度実績	
			2019年度	2022年度	2023年度	2024年度		
二酸化炭素排出量の削減	〔目標値設定基準率〕			基準年度 実績値比 1%削減			実績	対目標比
	エネルギー使用量（原油換算値）	Kl	547	541	541	541	702	128.3%
	電気（※1）	kWh	1,562,872	1,547,243	1,547,243	1,547,243	1,900,178	122.8%
	都市ガス	㎥	72,713	71,986	71,986	71,986	64,208	89.3%
	LPG	㎥	—					
	ガソリン	L	60,225	59,623	59,623	59,623	11,263.3	200.2%
	軽油	L	921	912	912	912	2,441.7	267.7%
	二酸化炭素排出量	t-CO_2	998	986	986	986	1,307	130.9%
廃棄物排出量の削減（※2）	〔目標値設定基準率〕		基準年度 2022年度	対前年 1％削減			実績	対目標比
	一般廃棄物	t	14.0	14.0	13.9	13.7	14.0	ー
	産業廃棄物	t	171.5	171.5	169.8	168.1	171.5	ー
水使用量の削減	〔目標値設定基準率〕			基準年度　実績値比 1%削減			実績	対目標比
	水使用量	㎥	10,254	10,151	10,151	10,151	8,034	79.1%
古紙資源化の推進	〔目標値設定基準率〕			再資源化			実績	対目標比
	古紙資源化率	%	100	100	100	100	100	—

《エネルギー使用量に関する統括》
・電気、ガスが目標比を上回ってしまったが、これは換気を実施しながらのエアコン使用による負荷増加が要因であったと思われる。
・ガソリン、軽油ともに使用量が増加しているが、実績にここ2年に新規参入した愛知トヨタ・L＆F中部の数値が含まれているため、次年度より基準年度を2021年度とする。

※１ 電気の「二酸化炭素排出量」はトヨタエナジー排出係数を使用（2019年度 0.466kg-CO_2/kWh）を使用。
※２「一般廃棄物・産業廃棄物」の削減については、ATグループ全体にあわせて基準年度を2022年度とする。

６．環境経営の取組結果と評価

★エコアクション21審査

・2022年９月13日～17日の５日間で「エコアクション21外部審査」を実施しました。

・2022年11月24日に開催されたエコアクション21中央事務局判定会議においてATグループは「認証継続」の判定を受けました。

・「認証継続」の判定は受けましたが、指摘事項もいただいており、これらに対する対応を実施しました。

事業会社名	2022年度認証取得状況	サイト数
ＡＴグループ	本社	1
愛知トヨタ	本社および全拠点	９６
カローラ愛豊		６６
ネッツ愛知		３３
ネッツ東海		２１
Ｌ＆Ｆ中部		２８
愛知スズキ		１７
アトコ／トランサット	本社および全拠点（フード部門を除く）	１２
愛知クレジット	本社	1
システム愛知	本社および全拠点	2
ＡＴビジネス		5
健康保険組合	健保会館	1

★指摘事項＜行政への届出不備＞

・「名古屋市産業廃棄物等の適正な処置および資源化の促進に関する条例」では、特別管理産業廃棄物が発生する場合、事業所としての設置報告が要求されています。オートタウン高辻南館各社において実施した”抗原検査”の検査キットは特別管理産業廃棄物として適切に処理していましたが、事業所の設置報告の届出を実施していませんでした。

➤対応内容

・ＡＴグループ担当者により、今回指摘を受けた高辻南館の「特別管理産業廃棄物発生事業所設置報告」を９月21日に名古屋市環境局廃棄物対策課へ届出を行い受理されました。

6．環境経営の取組結果と評価

★指摘事項＜産業廃棄物置場の看板設置と種類の記載について＞
・産業廃棄物置場に廃アルカリ（廃LLC）が保管されているが、掲示板には廃アルカリの記載がない。
・廃油の保管場所に産業廃棄物の看板の掲示がない。

➤対応内容
・産廃置場に廃LLC容器が設置されている拠点は法定表示板の品目欄に「廃アルカリ」を追加するよう９月28日に各社へ展開しました。
・トヨタ系4販社の拠点においては、 2023年５月の統合に合わせて、全拠点で廃棄物の保管場所ごとに法定掲示板を掲示するよう準備を進めています。

★指摘事項＜記録類の不備＞
・年に１回の法定水質検査（11条検査）の義務について、2022年に検査を実施しているが、昨年は未実施であった。
・浄化槽の清掃、保守点検記録は５年間の保管義務がある。清掃は年１回実施しなければならないが、最後の清掃記録は平成31年のものであった。保守点検の最後の記録は2021年７月20日と2022年６月29日であり、この間の記録は保管されていない。清掃と保守点検は業者にと合わせを行い実施の確認はできた。
・防火管理者の変更届はあったが、消防計画については保管されていなかった。

➤対応内容
・2022年度の11条検査は９月15日に実施されていることを確認しました。この検査結果も含め、過去３年分の保守点検と清掃記録を保管するようにしました。
・新たな消防計画を作成予定であったため、消防へ提出後報告するよう指示しました。また、該当拠点へ防火管理台帳に対するヒアリング調査を実施しました。

エコアクション21®
認証番号0012546

6．環境経営の取組結果と評価

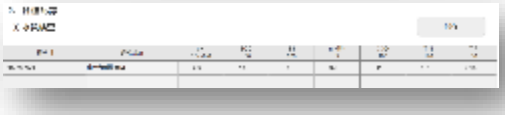
★「排出事業者による産廃処理状況の確認」と実施

・「産業廃棄物処理法」および県の環境条例で、排出事業者には処理委託先への年１回の現地確認が義務付けられており、ATグループ各社が処理委託しているすべての産業廃棄物処理業者へ、現地確認を実施しました。
・確認結果は現地写真とともに報告書へまとめ、ATグループと各事業会社にて共有を図っています。

➤「現地確認報告書」と現地確認の様子

★油水分離槽を有する拠点での「水質検査」実施

・「水質汚濁防止法」「下水道法」の遵守状況を確認する目的で、油水分離槽を有するグループ事業会社の全拠点にて「水質検査」を実施しました。
・水質検査を実施した結果、基準値を逸脱している拠点はありませんでした。
・結果は「環境ポータルサイト」に掲載し「見える化」を図りました。



➤拠点の「油水分離槽」最終層から採水している様子と測定結果の画面

★整備工場を有する拠点での「騒音測定」実施

・「騒音規制法」の遵守状況を確認する目的で、整備工場を有するグループ事業会社の全拠点にて「騒音測定」を実施しました。
・測定は業務稼働時間内に近隣住居に近い位置で行いましたが、基準値を逸脱した拠点はありませんでした。
・結果は「環境ポータルサイト」に掲載し「見える化」を図りました。

➤拠点の敷地境界で騒音想定を実施している様子と測定結果画面

6．環境経営の取組結果と評価

★板金塗装拠点への定期監査を実施

・環境関連法令や「労働安全衛生法」の法令遵守状況を確認する目的で、板金・塗装業務を行うグループ事業会社の全拠点にて、定期監査を実施しました。
・塗料等の有機溶剤や危険物管理の運用状況について現地調査を行った結果、全拠点で適正運用されていることを確認しました。

➤拠点内に掲示されている法定看板と危険物の保管状況

★EMS推進連絡会の定期開催

・四半期毎に、グループ事業会社の環境担当者が一同に会し、環境法令の改正状況、各社の環境活動の進捗状況や環境事故に関する情報共有を行う会議を開催しました。
・会議はタブレット端末を使用し、ペーパーレスで実施しました。

➤タブレット端末に投影した会議資料

★環境ポータルサイトの運用

・すべてのグループ事業会社を対象にエネルギー使用量や法令に関する情報など、環境に関する情報の見える化を図っています。
・今後はCO_2削減を推進していくための情報を掲載する等、コンテンツの充実を図っていく予定です。

➤環境ポータルサイトのTOPページと拠点のエネルギー使用量の表示画面

6．環境経営の取組結果と評価

★環境教育ツールの活用

・環境に関する情報や取り組みの伝達ツールとして「e-information」を定期発行し、グループ全社に展開しています。
・グループ統一の取り組みや考え方を従業員一人ひとりに伝えるため、環境教育冊子の改訂版を発行しました。また、業務に関わる環境法令を解説する「法令一覧」を管理職へ配布しています。

➤改訂した環境教育冊子「私たちができる職場の環境活動」

★環境マネジメント「EMSファイル」の活用

・環境情報を集約する「EMS運用ファイル」と環境関連法令に関わる記録類を集約する「記録・保管ファイル」を用いて、帳票類の一元管理を行っています。
・２冊のファイルはエコアクション21の認証を取得している全ての事業会社の拠点に配備しています。

➤グループ統一で使用している「EMSファイル」

★新型コロナウィルス感染症検査キットの適切な廃棄

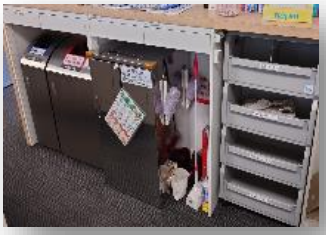
・新型コロナウィルス感染症の感染拡大に伴い、南館各社において拡大防止を目的に必要に応じて「抗原検査」を実施しました。
・使用済の検査キットは感染性廃棄物となるため、高辻サービスセンター１階のごみ集積場内に廃棄BOXを設置し、「特別管理産業廃棄物」として処理しました。

➤ごみ集積場に設置した廃棄BOXと法定表示板

６．環境経営の取組結果と評価

★南館執務室「ゴミ分別廃棄ステーション」の活用

・ATG南館の各フロア執務室のごみ廃棄場所を統一し、分別廃棄の推進を図っています。
・個人のごみ箱を廃止することにより、ごみの発生抑制を図っています。
・古紙の分別もできるよう専用の「古紙分別ＢＯＸ」と「機密文書回収BOX」を設置しています。



➤ATグループ執務室内の「ごみ分別廃棄ステーション」

★節電プログラムに参画

・冬の厳しい電力需給が見込まれる中、政府が企業に向けて節電協力を要請する「節電プログラム」の趣旨に賛同し、2023年１月～３月の期間にATグループ全社で節電に向けた取組みを実施しました。
・その結果、展開期間の電気使用量は対前年比9.3%削減することができました。

➤節電プログラム展開資料例

★「クールビズ」の実施と地球温暖化対策への参加

・環境省が夏季に推奨しているクールチョイスの１つである「クールビズ」を５月から９月の５カ月間実施しました。
・室内温度「28℃目安」をグループ全体で推奨し、地球温暖化対策活動に参画することにより、CO_2削減の進捗を図りました。

➤執務室内のエアコンパネルに室温温度の目安を表示した掲示物

6．環境経営の取組結果と評価

★地域連携

・名古屋市昭和消防署からの要請を受け、春と秋の「全国火災予防運動」に協力しました。
・高辻北館ランドマークビジョンを使い啓蒙活動を実施しました。

➤秋の火災予防運動、啓蒙活動の様子

★まちなかクリーンデーの実施

・毎月第２金曜日はATグループ統一の「まちなかクリーンデー」として、拠点周辺だけでなく、近隣まで範囲を広げ清掃活動を実施しています。

➤高辻地区の「まちなかクリーンデー」の様子

★環境に配慮した取組

・ATG✕MARTではSDGsへの取組として日替わり弁当容器をリサイクル容器へ変更し、お渡しするスプーンやフォークの素材をバイオマスプラスチックへ変更しました。

➤取組紹介写真

7. 環境関連法規則の遵守状況および評価

（１） ATグループ全体

法令等の名称		要求事項	該当の有無	評価
廃棄物	廃棄物処理法	産業廃棄物の適切な処理	○	○
		電子マニフェスト発行状況の報告	○	○
		収集運搬業者・処理委託業者との契約締結	○	○
	愛知県および名古屋市、廃棄物の適正な処理に関する条例	廃棄業者への現地確認実施	○	○
		現地確認の記録保管（5年間保管）	○	○
大気	フロン排出抑制法	定期点検、フロンガスの適正な回収	○	○
	自動車NOX・PM法	自動車から排出される窒素酸化物等の排出抑制に努める	○	○
水質	水質汚濁防止法	貯油施設の破損当、事故時の措置	○	○
	下水道法	下水道への不適物放流禁止の遵守	○	○
	浄化槽法	設置または変更時の届出	○	○
		保守点検	○	○
		年1回、水質に関する定期検査を受ける（11条検査）	○	○
騒音・振動	騒音規制法	規制基準の遵守	○	○
		騒音発生源となる特定施設設置時の届出	○	○
	振動規制法	規制基準の遵守	○	○
		振動発生源となる特定施設設置時の届出	○	○
再資源化	自動車リサイクル法	自動車所有者の責務遂行	○	○
		顧客から廃棄依頼された自動車・使用済車の適正な処理	○	○
	家電リサイクル法	特定家庭用機器（テレビ・エアコン・冷蔵庫・洗濯機等）の適正な廃棄	○	○
化学物質危険物	PRTR法	指定化学物質等の取扱い等自主管理	○	○
	消防法	油脂類保管量の遵守	○	○
		保管方法、設備や掲示物表示の遵守	○	○
	高圧ガス保安法	高圧アセチレンガスボンベの適切な取扱い	○	○
	労働安全衛生法	化学物質等の有害性等の調査および健康障害防止措置	○	○
エネルギー	省エネルギー法	連鎖化事業所としての特定事業者指定と削減計画の策定	○	○

（２）環境関連の法規違反、苦情の有無

・過去3年間、環境関連法規の違反、関係当局からの違反等の指摘もありませんでした。
・騒音に関する苦情はありましたが、全て適切に対応し解決しています。

８．代表者による全体評価と見直し

◇環境マネジメント活動内容

2022年度は、グループで最大95サイトの愛知トヨタがエコアクション21の認証に加わり、トヨタ系４販社はすべてエコアクション21を基本にEMS活動を推進する体制が整いました。

すでに日本最大のサイト数をほこるＡＴグループですが、地元に根差した企業として「この会社でよかった」と地域のみなさまから評価いただけるよう、グループ一体となって環境への取組みを推進してまいります。

◇環境法令の遵守状況

グループ事業会社の拠点において、環境への影響が懸念される項目については、CSR活動の一環として拠点の現地調査や監査等を行い、定期的な確認を実施しています。

また、油水分離槽を設置している拠点では、外部委託業者による定期清掃や水質検査を実施することで維持管理を行っております。また、整備工場を保有する拠点においては、従業員自らが騒音測定を実施しており、これらの結果は「環境ポータルサイト」に記録しています。

2022年度においては、行政や関係当局から法令違反等の指摘を受けることはありませんでした。今後も事業活動を通じた法令違反が発生しない体制を維持すべく、ＡＴグループと事業会社はコンプライアンスを第一とした企業風土を構築してまいります。

◇今後に向けて

2023年度は、ＩＳＯ認証を取得している２社（トヨタレンタリース愛知・トヨタホーム愛知）がエコアクション21への参画を検討しています。これが実現すればＡＴグループ全ての事業会社が同じ環境認証のもとでＥＭＳを推進するという体制が整います。2社のスムーズな移行に向けサポート体制を整えてまいります。

ＳＤＧｓに対する意識の高まりとともに「環境」に対する取組みは企業評価において重要な要素となっています。ＡＴグループは「クルマ」をコア事業としていますが、カーボンニュートラルの実現に向けた取組みを強化し、メーカーやお客さまとともに環境にやさしい社会の実現に向けた努力を継続してまいります。

2023年３月31日

株式会社ＡＴグループ

代表取締役社長　山口　真史

9．2023年度　環境経営計画

（1）環境経営目標

① 環境法令の遵守

・環境関連法令の改正情報についてWEBサービスを使用し定期的に監視する
・法令改正情報を随時伝達し情報共有する

② 二酸化炭素排出量の削減

《電力使用量の削減》
・節電啓蒙ポスターの掲示
・不要照明の消灯
・室内温度を基準とした空調設定（夏季：28℃・冬季：20℃）
・クールビズ、ウォームビズの推進

《燃料使用量の削減》
・社有車全てエコカーを使用
・エコドライブの推進

③ 廃棄物創出量の削減

・各所ごみ箱の設置数を制限し、発生抑制に努める
・ごみ分別廃棄ルールを定め、分別廃棄を実施

④ 水使用量の削減

・手洗い時の流し放しをしない
・施設設備は節水タイプを優先して使用

⑤ リサイクルの推進

・古紙は品目別に分別廃棄し、リサイクル可能な回収業者に委託
・資源ごみ（びん、缶、ペットボトル）はリサイクル可能な回収業者に委託

⑥ 社会貢献活動の推進

・毎月１回、地域貢献として近隣の清掃活動を実施
・地域への貢献活動を積極的に実施

⑦ 環境教育の実施

・グループ統一、環境マネジメント「EMSファイル」を活用した包括的な管理を実施
・環境教育ツールを活用し、従業㊞教育を継続的に実施

⑧ 次世代自動車の推進

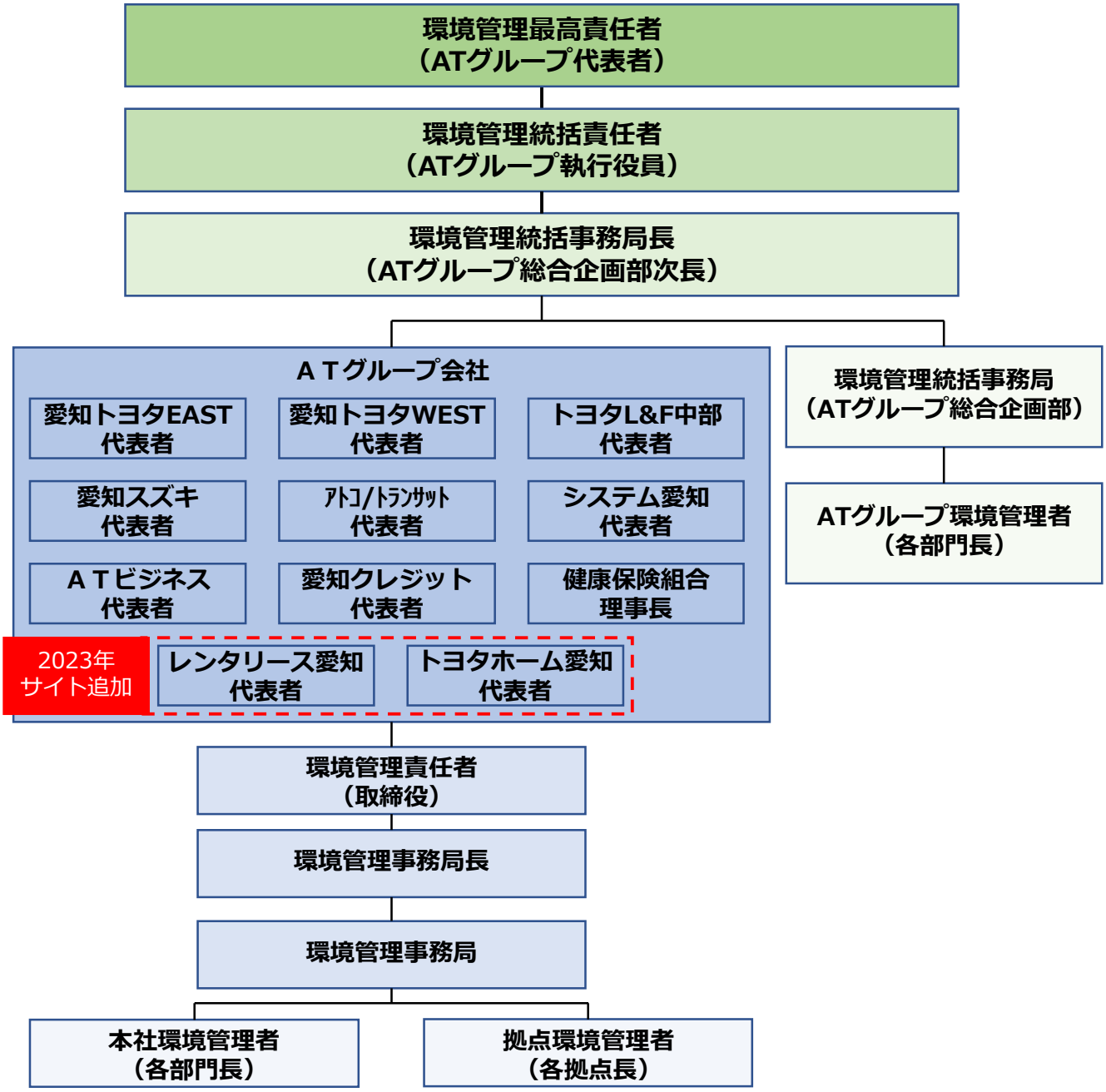
・低炭素社会へ貢献するため、次世代自動車の使用および販売を推進
（次世代自動車＝HEV、PHEV、BEV、FCEV）
・お客さまへ自動車使用に関わる「環境影響」をご説明し、次世代自動車を率先販売

＜認証拡大途中であるため、拡大が完了する2023年度まで記載の活動を継続する＞

（２）CO_2削減に向けた取組事項
グループ統一取組事項「CO_2削減に向けた3つの”カエル”活動」

カエル項目	取組事項	対象			取組時期		該当の有無
		会社	拠点	従業員	2023年度	中長期	
モノを替える	省エネ機器の計画的導入	○	○		○		照明のLED化 省エネエアコンの導入 トイレ設備のリフォーム
	社有車の環境車両比率拡大（EV,PHV,HEV,FCV）	○				○	ガソリン車・軽油車をEV・PHEV・HEV・FCVへ切替
	拠点への自家消費型太陽光発電導入	○				○	新設拠点の建築時に導入を検討 可能であれば既存拠点への導入も進める
意識と行動を変える	エネルギー使用量の対前年1%削減	○	○	○	○		不要な照明消灯の徹底 働き方改革で退社時間を早める エアコン設定温度 （夏28℃ 冬20℃）の徹底
	ペーパーレスの推進	○	○	○	○		業務見直しによる紙使用量 コピー量の削減 リサイクルコピー用紙への切替
自然に還る	環境活動への参加	○			○		植林事業等の環境活動支援
	再生エネルギーの導入	○				○	電力会社から販売されている再生エネルギー（太陽光,水力,風力等から発電したクリーン電力を購入）

（３）2023年度　エコアクション２１推進体制・組織図



（環境管理事務局　担当者）
㈱ATグループ　総合企画部　総合企画課　子安　芳嗣
（連絡先）052-626-4389

【参考資料】

2022年度
グループ事業会社の取組結果

※活動取組事例は各社環境経営レポートから抜粋

エコアクション21®
認証番号 0012546

◆愛知トヨタ自動車株式会社（主な業務：車両販売　対象拠点数：95）

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO_2排出量（t）
二酸化炭素排出量の削減	エネルギー使用量　（原油換算値）	Kl	2021	5,252,063	92%	—
			2022	4,837,365		—
	電気	kWh	2021	15,564,232	93%	7,252
			2022	14,516,096		6,764
	都市ガス	㎥	2021	476,230	91%	1,028
			2022	433,583		936
	LPG	㎥	2021	19,843	86%	59
			2022	17,102		51
	ガソリン	L	2021	683,596	87%	1,585
			2022	592,622		1,374
	軽油	L	2021	90,329	83%	233
			2022	75,333		194
	水道	㎥	2021	71,947	69%	38.9
			2022	49,412		26.7
	二酸化炭素排出量合計	t-CO_2	2021		92%	10,195.9
			2022			9,345.7

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》
※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2021年度	2022年度
プラスチック使用製品産業廃棄物の排出量	1,345.0	1,269.5

◆愛知トヨタ自動車株式会社（主な業務：車両販売　対象拠点数：95）

《環境活動取組事例》

1．「重点管理設備日常点検」の実施
・拠点にある環境法令に関わる設備について、毎週１回の点検を行うことにより、不具合や事故を未然に防止する活動を行った

2．「危険物総量把握」の実施
・拠点で保管している危険物の総量を毎月１回把握して、消防法および火災予防条例で定められた基準を守れているかを確認する活動を行った

3．「法令勉強会」の実施
・BPセンターを対象に労働安全衛生法など拠点に関わる法令について勉強会を開催し、その目的や自拠点でやるべきことなど知識を深める活動を行った

4．「水質調査」の実施
・各拠店の工場および洗車場からの排水の水質検査を行った。
N－ヘキサン(油分)の基準値不適合が１拠点あったが、槽内に吸着マットを設置し、外部流出に対する対策が行われていた

5．「緊急時想定訓練」の実施
・全拠点で「事故車や預かり車両からのオイル漏えい」を想定し、環境事故発生時の発生時の手順および対応備品の保管状況を確認し、万が一に備えた対応訓練を実施した

◆トヨタカローラ愛豊株式会社（主な業務：車両販売　対象拠点数：64）

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO_2排出量（t）
二酸化炭素排出量の削減	エネルギー使用量　（原油換算値）	Kl	2021	2,461,999	78%	—
			2022	1,930,497		—
	電気	kWh	2021	7,926,230	72%	3,654.0
			2022	6,115,629		2,623.6
	都市ガス	㎥	2021	68,390	89%	152.5
			2022	60,907		135.8
	LPG	㎥	2021	68,818.0	81%	206.5
			2022	55,817.1		167.5
	ガソリン	L	2021	272,146.0	87%	631.4
			2022	236,908.6		549.6
	軽油	L	2021	104,023.0	75%	268.4
			2022	77,638.1		200.4
	水道	㎥	2021	43,809	87%	23.7
			2022	38,391		20.7
	二酸化炭素排出量合計	t-CO_2	2021		75%	4,936.4
			2022			3,697.6

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》
※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2021年度	2022年度
プラスチック使用製品産業廃棄物の排出量	2,035.2	1,668.1

◆トヨタカローラ愛豊株式会社（主な業務：車両販売　対象拠点数：64）

《環境活動取組事例》

1．ATG環境ガイドラインの遵守

・自主チェックの実施
毎週火曜日にチェックし（休日の場合は翌水曜日）
拠点長に確認をしてもらい月締めにて翌月5日までに
本部へ写しを送る。原本は拠点保管
（EMSファイルへ綴じる）

2．水質調査
水質調査会社に油水分離槽の水質調査を依頼し実施した。
結果、1/67でノルマルヘキサンの値が不適合だった。
鉱物系で8.4と5をオーバーしたので調査の結果根だった。
調査の結果特段悪いところは無く、日々の対応を徹底させて
再調査した所良好となった。

3．オイル流出訓練
緊急対応時戸惑わないように吸着剤の確認および
対応の再確認をした

4．緊急訓練の実施
災害時に戸惑わないように訓練を実施

5．廃棄物の適正排出
産業廃棄物と一般廃棄物置場を集約し
管理がしやすいようにした。
混合による保管を改め鉄くずと廃プラの
保管容器を分けた。

6．社会貢献活動

・献血活動
２月17日現在実施状況は全体達成率で37%となっています

・プルタブ回収
２月17日現在類型収集重量410.9㎏となっています

◆ネッツトヨタ愛知株式会社（主な業務：車両販売　対象拠点数：32）

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO_2排出量（t）
二酸化炭素排出量の削減	エネルギー使用量　（原油換算値）	Kl	2021	1,183,502	83%	—
			2022	978,951		—
	電気	kWh	2021	4,008,361	83%	1,867.9
			2022	3,328,362		1,551.0
	都市ガス	㎥	2021	16,076	80%	34.7
			2022	12,912		27.9
	LPG	㎥	2021	15,990	85%	48.0
			2022	13,551		40.7
	ガソリン	L	2021	140,036	79%	324.9
			2022	110,496		256.4
	軽油	L	2021	9,108.0	104%	23.5
			2022	9,507.6		24.5
	水道	㎥	2021	23,924	88%	12.9
			2022	20,883		11.3
	二酸化炭素排出量合計	t-CO_2	2021		83%	2,311.9
			2022			1,911.8

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》
※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2021年度	2022年度
プラスチック使用製品産業廃棄物の排出量	201.9	202.3

◆ネッツトヨタ愛知株式会社（主な業務：車両販売　対象拠点数：32）

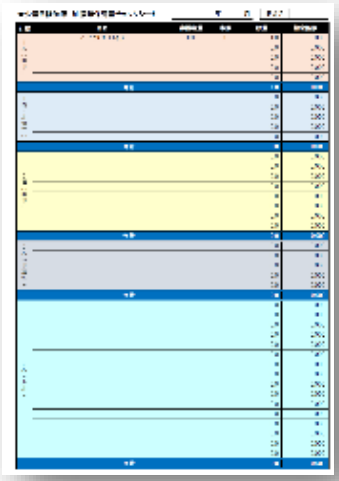
《環境活動取組事例》

1．重点管理設備日常点検
　各店舗のエンジニアリーダーが毎週重点管理設備日常点検確認シートを基に、各設備の点検を実施しました。
　確認シートに記入し最後はEMSファイルに綴じて保管します。

2．ATグループ環境ポータルサイト
　このサイトを活用し、毎月の電気、ガス、ガソリン、水道、一般廃棄物などの使用量及び廃棄量を把握しCO_2排出量比を把握及び評価しています。

3．毎月の油脂類保管量の確認
　チェック表を活用し油庫、建屋内と分けて指定倍数に自動計算された数値をポータル実績報告に投稿されている下記の報告書に入力し確認しています。

4．省エネルギー対応
　①エアコンの温度設定
　　ラベルを作成しエアコンS/W近辺に表示し啓蒙しました。
　②節電プログラム促進事業への参画（１～３月末まで）
　　当社の実施事項は
　　・使用していない部屋（会議室・更衣室等）の照明消灯、エアコン停止
　　・ショウルームは19:00消灯
　　を実施事項としました。
　　・当社の実績は、対前年比18%の削減を見込んでいます。
　　最終結果は、5月頃に判明する予定です。



◆ネッツトヨタ東海株式会社（主な業務：車両販売　対象拠点数：22）

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO_2排出量（t）
二酸化炭素排出量の削減	エネルギー使用量　（原油換算値）	Kl	2021	1,124,190	86%	—
			2022	968,308		—
	電気	kWh	2021	3,771,288.0	86%	1,757.4
			2022	3,226,867.0		1,503.7
	都市ガス	㎥	2021	27,002	82%	58.3
			2022	22,099		47.7
	LPG	㎥	2021	13,741	46%	41.2
			2022	6,347		19.0
	ガソリン	L	2021	99,547.0	94%	230.9
			2022	93,834.5		217.7
	軽油	L	2021	35,000.0	85%	90.3
			2022	29,781.5		76.8
	水道	㎥	2021	21,574	81%	11.6
			2022	17,612		9.5
	二酸化炭素排出量合計	t-CO_2	2021		86%	2,172.9
			2022			1,874.4

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》
※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2021年度	2022年度
プラスチック使用製品産業廃棄物の排出量	214.5	205.9

◆ネッツトヨタ東海株式会社（主な業務：車両販売　対象拠点数：22）

《環境活動取組事例》

1．ATG環境ガイドラインの遵守
　重点管理設備点検シートを用いて、毎週重点項目の点検を実施。
　異常個所があった場合は、すぐに対応するようにしました。

2．環境ポータルサイトへのチェックの実施
毎月末に拠点長による環境ポータルサイトの拠点評価入力を行い、店舗の電気使用量をしっかりと把握する。その際に、他の項目も併せて把握して頂いた。

3．騒音測定・水質検査の実施
①毎年11～12月にかけて、騒音測定を実施。どの店舗も幹線道路沿いということもあり、数値は高めですが、近隣住民とのトラブル等の報告はありません。
②７月に油水分離槽の水質検査を実施
　異常店舗が３店舗あったが、それぞれ原因を追究、対策をして、１月に再検査を実施。全店検査基準を達成しました。

4．工場・ショウルームの照明のLED化
高浜店・呼続店・名和BPセンターにおいて照明のLED化を実施しました。
細かな所を除いて、全店舗のLED化を完了しました。
・LED化後の電気使用量の推移
　施工後の電気使用量を環境ポータルサイトで確認すると、どの工場も前年比で明らかに減少していることがわかります。
　①高浜店

会社：ネッツ東海
部門：048 高浜店
年度：2022

※前年比は前年との増減率です

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
電気	使用量	前年	9,268.0	9,188.0	12,220.0	15,029.0	12,732.0	12,533.0	11,694.0	9,790.0	10,280.0	12,082.0	11,931.0	11,054.0	137,801.0
	(kw/h)	今年	9,734.0	7,031.0	9,219.0	12,163.0	9,933.0	10,875.0	7,480.0	6,689.0	8,862.0	10,364.0	10,191.0		102,541.0
		前年比	5.0%	-23.5%	-24.6%	-19.1%	-22.0%	-13.2%	-36.0%	-31.7%	-13.8%	-14.2%	-14.6%		-25.6%
	CO2排出量	前年	4,272.5	4,235.7	5,633.4	6,928.4	5,869.5	5,777.7	5,390.9	4,513.2	4,739.1	5,569.8	5,500.2	5,095.9	63,526.3
	(kg/kwh)	今年	4,175.9	3,016.3	3,955.0	5,217.9	4,261.3	4,665.4	3,208.9	2,869.6	3,801.8	4,446.2	4,371.9		43,990.1
		前年比	-2.3%	-28.8%	-29.8%	-24.7%	-27.4%	-19.3%	-40.5%	-36.4%	-19.8%	-20.2%	-20.5%		-30.8%

◆ネッツトヨタ東海株式会社（主な業務：車両販売　対象拠点数：22）

《環境活動取組事例》

②名和店（名和BPセンターと合算）

会社：ネッツ東海
部門：043 名和店
年度：2022

※前年比は前年との増減率です

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
電気	使用量	前年	31,531.0	29,458.0	37,628.0	43,001.0	37,668.0	38,832.0	35,932.0	32,615.0	38,693.0	44,497.0	42,964.0	39,100.0	451,919.0
	(kw/h)	今年	32,744.0	31,818.0	39,122.0	46,725.0	36,879.0	39,891.0	32,674.0	30,879.0	38,262.0	41,619.0	39,494.0		410,107.0
		前年比	3.8%	8.0%	4.0%	8.7%	-2.1%	2.7%	-9.1%	-5.3%	-1.1%	-6.5%	-8.1%		-9.3%
	CO2排出量	前年	14,535.8	13,580.1	17,346.5	19,823.5	17,364.9	17,901.6	16,564.7	15,035.5	17,837.5	20,513.1	19,806.4	18,025.1	208,334.7
	(kg/kwh)	今年	14,047.2	13,649.9	16,783.3	20,045.0	15,821.1	17,113.2	14,017.1	13,247.1	16,414.4	17,854.6	16,942.9		175,935.9
		前年比	-3.4%	0.5%	-3.2%	1.1%	-8.9%	-4.4%	-15.4%	-11.9%	-8.0%	-13.0%	-14.5%		-15.6%

③呼続店

会社：ネッツ東海
部門：030 呼続店
年度：2022

※前年比は前年との増減率です

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
電気	使用量	前年	18,271.0	17,849.0	20,486.0	29,297.0	26,121.0	23,222.0	21,584.0	18,885.0	22,217.0	25,739.0	24,301.0	21,893.0	269,865.0
	(kw/h)	今年	17,766.0	16,832.0	21,309.0	26,751.0	24,310.0	24,193.0	18,123.0	15,857.0	19,951.0	21,246.0	20,662.0		227,000.0
		前年比	-2.8%	-5.7%	4.0%	-8.7%	-6.9%	4.2%	-16.0%	-16.0%	-10.2%	-17.5%	-15.0%		-15.9%
	CO2排出量	前年	8,422.9	8,228.4	9,444.0	13,505.9	12,041.8	10,705.3	9,950.2	8,706.0	10,242.0	11,865.7	11,202.8	10,092.7	124,407.8
	(kg/kwh)	今年	7,621.6	7,220.9	9,141.6	11,476.2	10,429.0	10,378.8	7,774.8	6,802.7	8,559.0	9,114.5	8,864.0		97,383.0
		前年比	-9.5%	-12.2%	-3.2%	-15.0%	-13.4%	-3.1%	-21.9%	-21.9%	-16.4%	-23.2%	-20.9%		-21.7%

◆トヨタＬ＆Ｆ中部株式会社（主な業務：産業車両・物流機器販売　対象拠点数：29）

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO_2排出量（t）
二酸化炭素排出量の削減	エネルギー使用量　（原油換算値）	Kl	2021	1,574,088	97%	—
			2022	1,522,620		—
	電気	kWh	2021	2,905,295.0	96%	1,353.9
			2022	2,803,247.0		1,306.3
	都市ガス	㎥	2021	2,086.0	98%	4.5
			2022	2,026.0		4.4
	LPG	㎥	2021	25,104.0	32%	75.3
			2022	7,889.2		23.7
	灯油	L	2021	—	—	—
			2022	42,945.6		106.9
	ガソリン	L	2021	493,432.0	98%	1,144.8
			2022	483,673.5		1,122.1
	軽油	L	2021	352,867.0	95%	910.4
			2022	335,966.5		866.8
	水道	㎥	2021	18,864.0	100%	10.2
			2022	19,027.1		10.3
	二酸化炭素排出量合計	t-CO_2	2021		95%	3,499.1
			2022			3,333.6

※灯油抜き

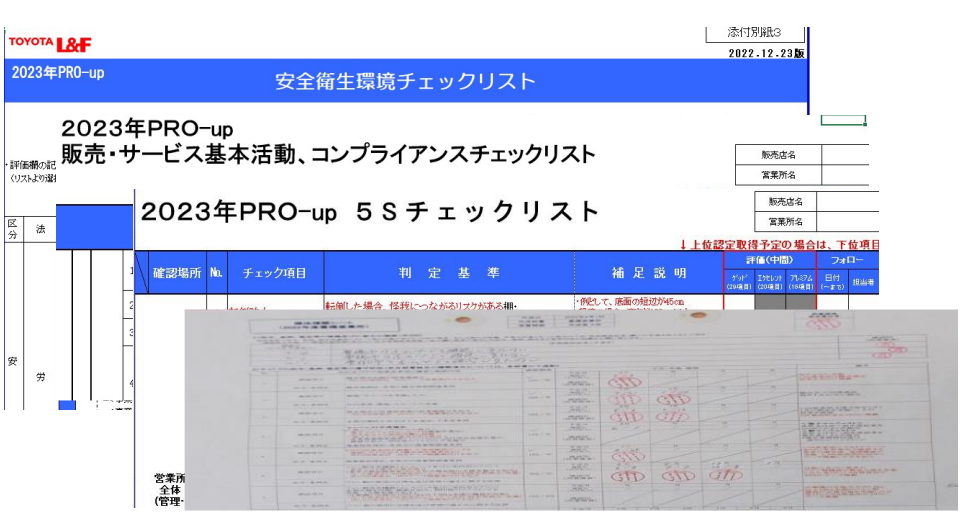
《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》
※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2021年度	2022年度
プラスチック使用製品産業廃棄物の排出量	218.1	235.2

◆トヨタＬ＆Ｆ中部株式会社（主な業務：産業車両・物流機器販売　対象拠点数：29）

《環境活動取組事例》

１．順守確認



・PRO-up「安全衛生環境」「販売・サービス基本活動、コンプライアンス」「５S」各チェックリストによる活動確認および「順法確認シート」による月度法令順守状況監視チェックの実施。

２．現場訓練動画の展開

・安全並びに環境リスクを考慮した「ショップ廃水関連作業訓練」「排水浄化装置」に関する動画を作成し全社展開を実施。
各拠店の現場訓練に動画教育を取り入れ実施状況については「訓練報告書」提出によって実施完了を確認。

◆トヨタＬ＆Ｆ中部株式会社（主な業務：産業車両・物流機器販売　対象拠点数：29）

《環境活動取組事例》

３．SDS管理と化学物質のリスクアセスメント

IDEMITSU

TOYOTA GENUINE MOTOR OIL SP 0W-20 GF-6A SYNTHETIC
34060154

出光

安全データシート

油－272

初回作成日：2020/04/27　改訂日：2020/04/27　版番号 1.0

1. 化学品及び会社情報

用 ガソリン車のエンジンオイル（乗用車用）

製品名	：TOYOTA GENUINE MOTOR OIL SP 0W-20 GF-6A SYNTHETIC
製品コード	：34060154
供給者情報	
供給者の会社名称	：出光興産株式会社
住所	：東京都千代田区丸の内3丁目1番1号
電話番号	：+81-3-3213-3143
ＦＡＸ番号	：+81-3-3211-5343
緊急連絡電話番号	：+81-3-3213-3143

共販品番
08880－13203

リスクアセスメント実施レポート

化学物質名	油－272　TOYOTA GENUINE MOTOR OIL SP 0W-20 GF-6A SYNTHETIC
作成者	太田　圭吾
作業場所	整備工場
作業内容	その他
労働者数	10人～49人
化学物質形態	液体
化学物質数	9

環境評価ランク：A　A2　B1　B2　C
リスクレベル：1　2　3　4　S
対策シート：100

リスクレベル	有害性ランク	爆発性ランク	取扱量ランク	化学物質名
1	A	中	中量	鉱油
1	A	中	少量	溶剤精製パラフィン油
1	A	中	少量	水素化低粘度パラフィン
1	A	中	少量	水素化中粘度パラフィン
1	A	中	少量	水素化軽質ナフテン
1	A	中	少量	潤滑油添加剤
1	A	中	少量	合成炭化水素
1	A	中	少量	モリブデンジー２－エチルヘキシルジチオカーバメート
1	A	中	少量	エステル油

リスク低減対策

リスクレベル	実施すべき事項

・化学物質に関するリスクアセスメント実施の継続（コントロールバンディング）
全SDS（1,280）に対し、970リスクアセスメント実施完了。
リスクアセスメント実施率 75.8%

４．リチウムイオンバッテリー処理契約

・電動ハンドパレットに搭載されているリチウムイオンバッテリーの産廃処理契約の締結。

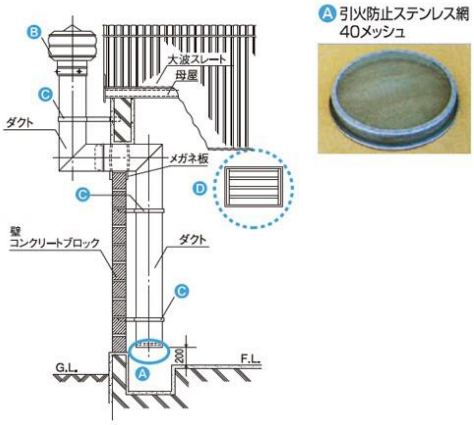
◆トヨタＬ＆Ｆ中部株式会社（主な業務：産業車両・物流機器販売　対象拠点数：29）

《環境活動取組事例》

５．UF膜廃水浄化装置導入

・UF膜廃水浄化装置を中古車部に導入。

６．少量危険物庫　換気装置の引火防止網　点検



・７月サービス課長会議にて危険物、少量危険物庫の吸排気口において自動強制排風機故障や夏場の庫内温度上昇リスクを懸念して、確認および清掃の実施を展開。

◆トヨタＬ＆Ｆ中部株式会社（主な業務：産業車両・物流機器販売　対象拠点数：29）

《環境活動取組事例》

７．廃電池（小型リチウムイオンバッテリー含む）処理方法動画の展開

・ＡＴグループのモバイルバッテリー発火事故を受け、全社統一「廃電池破棄BOX」の配布と絶縁方法を含めた廃棄方法についての動画を全社展開。

８．PRO－up 活動

◆愛知スズキ販売株式会社（主な業務：車両販売　対象拠点数：17）

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO_2排出量（t）
二酸化炭素排出量の削減	エネルギー使用量　（原油換算値）	Kl	2021	585,404	90%	—
			2022	526,538		—
	電気	kWh	2021	1,530,679	85%	713.3
			2022	1,296,117		603.9
	都市ガス	㎥	2021	358	86%	0.8
			2022	316		0.7
	LPG	㎥	2021	7	0%	0.02
			2022	0		0
	ガソリン	L	2021	177,208.0	99%	411.1
			2022	176,022.3		408.4
	軽油	L	2021	33,999	108%	87.7
			2022	36,645.8		94.5
	水道	㎥	2021	7,822	93%	4.2
			2022	7,277		3.9
	二酸化炭素排出量合計	t-CO_2	2021		91%	1217.1
			2022			1,111.4

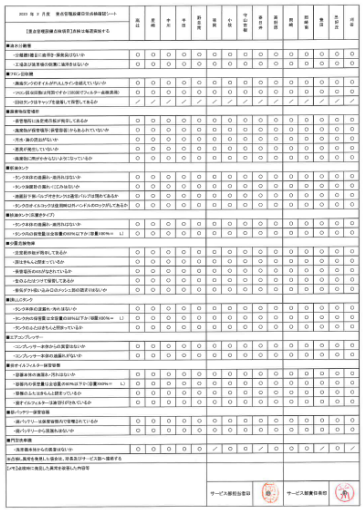
《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》
※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

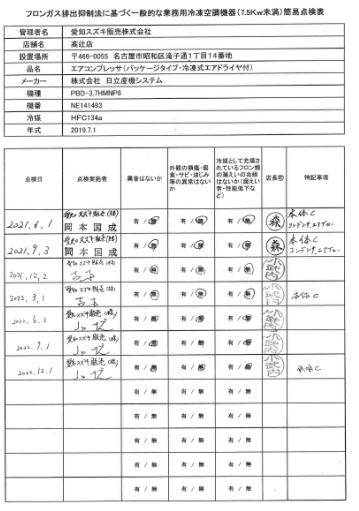
	2021年度	2022年度
プラスチック使用製品産業廃棄物の排出量	80.3	76.1

◆愛知スズキ販売株式会社（主な業務：車両販売　対象拠点数：17）

《環境活動取組事例》

1．ATG環境ガイドラインの遵守
ATGガイドラインに沿って各設備および活動の点検を行い、結果は月ごとに記録に残している





＜本部管理用シート＞　　＜フロン排出抑制法に基づく＜簡易点検票＞

2．「省エネルギー法」対象の検証（電気・ガス・水道・燃料使用量の把握）
各店舗は毎月の「電気・ガス・水道・燃料使用量」を環境ポータルサイトで随時確認

＜電気使用量＞

＜ガス使用量＞

＜水道使用量＞

＜燃料使用量（ガソリン）＞

＜燃料使用量（軽油）＞

◆愛知スズキ販売株式会社（主な業務：車両販売　対象拠点数：17）

《環境活動取組事例》

３．廃棄物（産廃および一廃）の分別管理
資源化を目的とした分別ＢＯＸおよび機密書類回収BOXを設置、可燃ごみについては設置数を制限し分別方法の周知と廃棄物の減量および資源化（リサイクル）に取り組んだ。

＜分別ＢＯＸ＞

＜機密書類回収ＢＯＸ＞

＜可燃ごみ＞

４．水質検査基準値（ノルマルヘキサン値＞達成
サービス工場保有店舗の油水分離槽については、定期清掃の実施および年１回の委託業者による水質検査を実施。全15拠点でノルマルヘキサン値が基準内である事を確認

会社コード	拠点名	拠点コード	採取場所	採取日	検査項目						
					pH	BOD	SS	n-ヘキサン	COD	T-N	T-P
					5.8～8.6	160.0	200.0	5.0	160.0	120.0	16.0
07	高辻店	080	油水分離槽出口	2022/7/15	5.8(21.8℃)	110	4	1未満	25	2.2	0.13
07	星崎店	013	油水分離槽出口	2022/7/15	7.7(23.0℃)	3.9	2	1未満	5.5	0.9	0.12
07	中川店	064	油水分離槽出口	2022/7/14	7.6(22.2℃)	1.1	1	1未満	2.9	0.8	0.02
07	半田店	057	油水分離槽出口	2022/7/14	7.3(21.9℃)	2.7	2	1未満	3.7	1.3	0.03
07	野並南店	070	油水分離槽出口	2022/7/15	8.6(22.8℃)	1.1	1未満	1未満	9.2	3.9	0.03
07	味岡店	031	油水分離槽出口	2022/7/14	7.3(22.2℃)	2.3	1未満	1未満	—	—	—
07	小牧店	022	油水分離槽出口	2022/7/14	6.8(22.3℃)	2.8	5	1未満	6.6	1.3	0.06
07	守山店	040	油水分離槽出口	2022/7/14	7.0(22.0℃)	3.1	5	1未満	5.8	1.9	0.08
07	春日井店	063	油水分離槽出口	2022/7/14	6.6(22.1℃)	6.8	4	1未満	—	—	—
07	サンフィールド高針原	073	油水分離槽出口	2022/7/14	6.9(21.9℃)	3.2	2	1未満	—	—	—
07	岡崎店	035	油水分離槽出口	2022/7/15	7.2(23.0℃)	10	3	1未満	3.3	1.1	0.05
07	岡崎南店	051	油水分離槽出口	2022/7/15	7.4(23.5℃)	12	1未満	1未満	2.9	1.2	0.08
07	豊田店	043	油水分離槽出口	2022/7/15	6.9(22.9℃)	8.0	3	1未満	—	—	—
07	サンフィールド三好丘		油水分離槽出口	2022/7/15	7.4(22.3℃)	11	1	1未満	3.9	2.8	0.02
07	サンフィールド三好丘(洗車機)	054	油水分離槽出口	2022/7/15	7.4(22.4℃)	3.2	2	1未満	1.8	0.4	0.01
07	刈谷店	048	油水分離槽出口	2022/7/14	7.7(22.5℃)	21	7	1未満	—	—	—

◆愛知スズキ販売株式会社（主な業務：車両販売　対象拠点数：17）

《環境活動取組事例》

5．騒音測定の実施と現状の把握
サービス工場保有店舗において測定を実施し、結果を環境ポータルサイトの騒音測定記録へ入力

会社　愛知スズキ販売
年度　2022

部門	測定日	実施者	用途地域	基準値	測定A	判定	測定B	判定	測定C	判定	測定D	判定	×の判定となった要因
小牧	2022/11/04	寺倉　和久	準工業地域	65	62.9	○	56.6	○	60.9	○	69.1	×	公道沿いの為
味岡	2022/11/19	藤本　健一	第一種住居地域	50	54	×	53	×	55	×	60	×	公道に面した立地の為、車両の走行音が影響してしまう。 スチーム洗浄機やエアツールなど使用時には騒音基準を越えてしまいました。
岡崎	2022/11/12	宮部　舞仁	工業地域	70	64	○	65	○	69	○	70	○	
守山吉根	2022/11/12	小島　浩司	準住居地域	50	48	○	50	○	69	×	55	×	C－公道沿い　D－工場内のため
豊田	2022/11/04	森本　修平	近隣商業地域	65	67	×	80	×	56	○	73	×	A　店舗工場からのエアツール音、　B　洗車場のスチーム音、　D　道路の交通音が要因でした。
刈谷	2022/11/04	西谷華　逢哉	第二種住居地域	50	55.6	×	54.3	×	56.5	×	50.6	×	工場でインパクト・エアブロー使う作業があった為だと思われます。
岡崎南	2022/11/14	神明　敏	準住居地域	50	53.7	×	51.6	×	58.6	×	59.4	×	店舗前の道路が交通量が多い為。
三好丘	2022/11/15	熊谷日出華	準工業地域	65	60.4	○	68.2	×	68.8	×	61.9	○	車が走行したため
半田	2022/11/14	長谷川　聡	準住居地域	50	53	×	63	×	53	×	63	×	店舗前公道の交通量が多く騒音を拾ってしまう為
春日井	2022/11/04	高山　剛志	近隣商業地域	65	57.4	○	64.3	○	62.2	○	61.5	○	
中川	2022/11/04	加藤　良平	準工業地域	65	72.1	×	60.3	○	61.5	○	55.7	○	国道１号線で通行車両の走行音が大きかったため
ＵＳとよおか			第二種住居地域	50									
野並南店	2022/11/18	高橋　光彩	準工業地域	65	61	○	58	○	63	○	65	○	
高針原	2022/11/04	宮嶋　聖典	準住居地域	50	59.8	×	59.9	×	50	○	50.7	×	店舗前が交通量の多い道路の為
高辻	2022/11/13	望月　俊一	近隣商業地域	65	57.8	○	53.4	○	58.1	○	51.2	○	

6．社会貢献活動
全拠点に「使い捨てレンズ空ケース回収BOX」を設置。使い捨てレンズ空ケースは素材がプロポリビレンのためリサイクルが容易でCO_2の削減に貢献。
得られた資金は「日本アイバンク協会」へ全額寄付される社会貢献活動に参加しています。
2022年10月に全社の使い捨てレンズ空ケースを回収、6.46kgをアイシティへ送付

コンタクトレンズ空ケース　重量報告書

ご送付頂きましたコンタクトレンズ空ケースの計量を終えましたので、重量を報告します。
ご確認を宜しくお願いいたします。
それでは、今後とも宜しくお願いいたします。

日付	ご提供者様	品名	数　量(kg)	備　考
2022年10月5日	愛知スズキ販売株式会社	コンタクトレンズ空ケース	6.46	

◆愛知スズキ販売株式会社（主な業務：車両販売　対象拠点数：17）

《環境活動取組事例》

６．教育プログラムの実施
環境マネジメント推進ツールの環境教育冊子「私たちができる職場の環境活動」を併用し各店舗での研修および拠点勉強会等で活用

◆株式会社アトコ/トランサット（主な業務：車両回送　対象拠点数：17/３）

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO_2排出量（t）
二酸化炭素排出量の削減	エネルギー使用量　（原油換算値）	Kl	2021	524,085	95%	—
			2022	496,287		—
	電気	kWh	2021	889,057	105%	414.3
			2022	937,438		436.8
	都市ガス	㎥	2021	3,197	230%	6.9
			2022	7,344.6		15.9
	LPG	㎥	2021	5,975.0	100%	17.9
			2022	5,994.7		18.0
	灯油	L	2021	—	—	—
			2022	143.3		0.4
	ガソリン	L	2021	58,613	90%	136.0
			2022	52,988		122.9
	軽油	L	2021	245,968	83%	634.6
			2022	204,827		528.5
	水道	㎥	2021	14,009	113%	7.6
			2022	15,866		8.6
	二酸化炭素排出量合計	t-CO_2	2021		93%	1,217.3
			2022			1,130.7

※灯油抜き

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》
※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2021年度	2022年度
プラスチック使用製品産業廃棄物の排出量	0.85	2.69

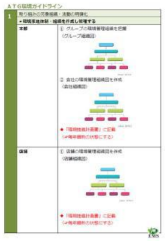
◆株式会社アトコ/トランサット（主な業務：車両回送　対象拠点数：17/３）

《環境活動取組事例》

１．ATG環境ガイドラインの遵守

①グループ各社のガイドラインチェック

各社はATGガイドラインに沿って
各設備および活動の点検を行った。
また、必要に応じ各拠店に訪問し、
環境ガイドライン遵守の重要性の周知を図った。



②ATグループCSR推進部EMS推進課作成の環境教育冊子の利用

環境マネジメント推進ツールの環境教育冊子
「私たちができる職場の環境活動」を使用し
社員に対し環境事故やトラブルなどの重要性を周知した。

③環境認証「エコアクション21」の継続審査

ATグループ協力のもと環境省が定めた
環境経営システムに関する第三者認証・登録制度である
「エコアクション21」に今年度からJTB犬山キャスタ店
が追加登録された。

２．古紙の分別廃棄による再資源化・再利用化の促進

①廃棄物管理方法

本社、SS高辻店などでは、機密文書処理ボックスの設置、古紙の再資源化を
促進した。また本社では5階の階段踊り場に紙資源回収場所を設定。かご付台を
設置し４Sをしやすい環境にした。
従業員がごみを分別する際、判断基準となる資源化早見表やリーフレットを展開
した。

◆株式会社アトコ/トランサット（主な業務：車両回送　対象拠点数：17/３）

《環境活動取組事例》

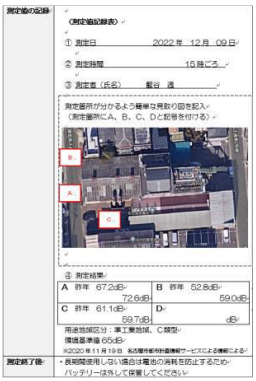
２．古紙の分別廃棄による再資源化・再利用化の促進

②廃棄物のリユース

保管期限の切れた書類等を廃棄する際、まだ使用可能なバインダーやファイルなどは、廃棄物として処分するのではなく、書類と分別し、再利用することとした。

３．騒音測定を実施し現状の把握

FP高辻、SS高辻店において騒音状況の調査を行った。
両拠点とも最大の騒音値は基準を超えており、今後は
音が出る作業をする時は、扉をしめるなど作業方法の見直しや近隣住民への
配慮を行うよう拠点に求めた。



４．水質検査を実施し、現状把握と環境汚染実施調査

FP高辻、SS高辻の２拠点に対し、油水分離槽の水質検査を外注業者に依頼した
結果、２拠点とも異常は見られなかった。

1. 水質検査結果一覧

表-1　令和3年　水質検査結果一覧

分析項目	採取日	pH	BOD (mg/L)	SS (mg/L)	N-ヘキサン (mg/L)
排水基準 / 事業所名		5.8～8.6	160	200	5
FPセンター	7/29	7.0	13	17	<0.5

排水基準以下
排水基準を超える

1. 水質検査結果一覧

表-1　令和4年　水質検査結果一覧

分析項目	採取日	pH	BOD (mg/L)	SS (mg/L)	N-ヘキサン (mg/L)
排水基準 / 事業所名		5.8～8.6	160	200	5
高辻サービスステーション①	7/29	7.0	<0.5	<1	<0.5
高辻サービスステーション②	7/29	7.1	9.6	2	<0.5

排水基準以下
排水基準を超える

◆愛知クレジットサービス株式会社（主な業務：自動車ローン　対象拠点数：１）

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO_2排出量（t）
二酸化炭素排出量の削減	エネルギー使用量　（原油換算値）	Kl	2021	11,500	98%	—
			2022	11,232		—
	電気	kWh	2021	37,833	102%	17.7
			2022	38,871		18.1
	都市ガス	㎥	2021	該当なし		
			2022			
	LPG	㎥	2021	該当なし		
			2022			
	ガソリン	L	2021	1,981	69%	4.6
			2022	1,382.2		3.2
	軽油	L	2021	該当なし		
			2022			
	水道	㎥	2021	該当なし		
			2022			
	二酸化炭素排出量合計	t-CO_2	2021		96%	22.3
			2022			21.3

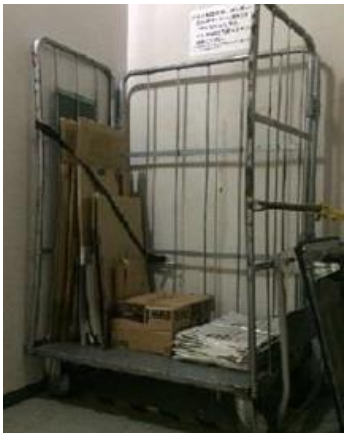
《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》
※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2021年度	2022年度
プラスチック使用製品産業廃棄物の排出量	—	—

◆愛知クレジットサービス株式会社（主な業務：自動車ローン　対象拠点数：１）

《環境活動取組事例》

１．廃棄物の適正排出
ATG西館では、回収箱の統一を行い分別表示し、
仕分けしやすい環境にした。
また、ATG西館５階の階段踊り場に紙資源回収場所に
かご付台車を設置し４Sをしやすい環境にした。



２．社用車のHV化
５台全車HV化完了

３．電子化（さらなる紙の削減）
一定レベルまで電子化は浸透した。情報確認作業の為の紙での確認を減らす検討が必要。

４．エアコン設定温度の厳守

◆トヨタ情報システム愛知株式会社（主な業務：システム開発　対象拠点数：２）

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO_2排出量（t）
二酸化炭素排出量の削減	エネルギー使用量　（原油換算値）	Kl	2021	231,610	99%	—
			2022	230,357		
	電気	kWh	2021	727,932	99%	339.2
			2022	725,344		338.0
	都市ガス	㎥	2021	34,229	97%	73.9
			2022	33,156		71.6
	LPG	㎥	2021	該当なし		
			2022			
	ガソリン	L	2021	5,381.0	114%	12.5
			2022	6,112.5		14.2
	軽油	L	2021	該当なし		
			2022			
	水道	㎥	2021	2,872	106%	1.6
			2022	3,085		1.7
	二酸化炭素排出量合計	t-CO_2	2021		99%	427.2
			2022			425.5

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》
※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2021年度	2022年度
プラスチック使用製品産業廃棄物の排出量	2.1	1.7

◆トヨタ情報システム愛知株式会社（主な業務：システム開発　対象拠点数：２）

《環境活動取組事例》

１．ATG環境ガイドラインの遵守

①ATグループCSR推進部EMS推進課作成の環境教育冊子
環境マネジメント推進ツールの環境教育冊子「私たちができる職場の環境活動」を利用し、新入社員を対象に勉強会を実施

②ATグループ作成の環境マネジメント推進ツール
環境マネジメント推進ツールの「EMS運用ファイル」「記録・保管ファイル」を運用した

◆トヨタ情報システム愛知株式会社（主な業務：システム開発　対象拠点数：２）

《環境活動取組事例》

２．フロン排出抑制法対応点検

①エアコン点検実施

フロン排出抑制法に基づいた業務用エアコンの簡易点検（９月と３月）と業者による定期点検（６月と１月）を実施した

３．その他（社会貢献活動）

①社会貢献活動

社会貢献活動の一環として、毎月第二金曜日に拠点周辺のゴミ拾いを行っている（まちなかクリーンデイ）

②カーボンニュートラル

「再エネ指定の非化石証書」により、稼働時のCO_2排出量が実質ゼロとなる自動販売機を２台設置。自動販売機１台設置につき、１本の植林がなされます

◆株式会社ＡＴビジネス（主な業務：間接業務　対象拠点数：５）

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO_2排出量（t）
二酸化炭素排出量の削減	エネルギー使用量　（原油換算値）	Kl	2021	540,371	97%	—
			2022	521,718		—
	電気	kWh	2021	1,995.051	89%	919.7
			2022	1,912,865		820.6
	都市ガス	㎥	2021	2,891	98%	6.4
			2022	2,829		6.3
	LPG	㎥	2021	14,484	48%	43.0
			2022	6,823		20.5
	ガソリン	L	2021	25,907.0	112%	60.1
			2022	29,025.6		67.1
	軽油	L	2021	744	68%	1.9
			2022	513		1.3
	水道	㎥	2021	6,984	145%	3.8
			2022	10,195		5.5
	二酸化炭素排出量合計	t-CO_2	2021		89%	1,034.9
			2022			921.3

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》
※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2021年度	2022年度
プラスチック使用製品産業廃棄物の排出量	360.7	373.8

◆株式会社ＡＴビジネス（主な業務：間接業務　対象拠点数：５）

《環境活動取組事例》

１．ATG環境ガイドラインの遵守
ATGガイドラインに沿って各事業所の重点管理設備の点検を行いました。
月ごとの点検記録は、office365内で確認できるよう残しています。

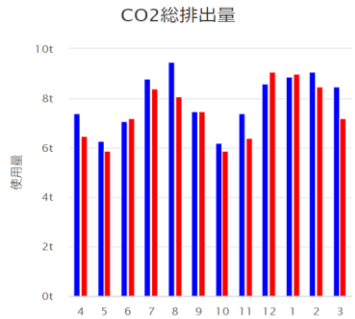
1．全社取組事項と目標

取組事項	目標
★環境活動	
・ATG環境ガイドラインの遵守	・自主チェックの実施
・エネルギー使用量（電気・ガス・水道・燃料）とCO2排出量の把握	・環境ポータルサイトへのチェック実施
・「一般廃棄物削減」のための資源化対策（古紙100%資源化）	・機密回収BOXの適切な運用
・「廃棄物（産廃および一廃）」の分別廃棄および排出量の把握	・分別管理の徹底保管場所の４S徹底
・環境法令の遵守と環境活動の推進状況の確認	・事務局による現場チェック実施
・環境事故に対応する備品と手順の確認	・緊急事態想定訓練の実施
・騒音測定を実施し現状を把握	・基準値遵守
・放流水水質検査を実施し現状を把握	・基準値遵守
・まちなかクリーンデーの実施	・全員参加
★CO2削減に向けた『３つの"カエル"活動』	
モノを変える	
・省エネ機器の積極的な導入	・新設および代替時は省エネ機器を選定
・事業会社の環境活動へ寄与する	・環境貢献につながる提案を行う
意識・行動を変える	
・働き方改革を推進し省エネ活動につなげる	・エネルギー使用量の対前年１%削減
自然に還る	
・ペーパーレス化の推進による森林の保護	・コピー用紙の対前年５%削減

２．エネルギー使用量の把握
電気・ガス・水道・燃料について使用量およびCO_2排出量を拠点毎に
把握できるようにして社員の意識向上に繋げました。

会社	ＡＴビジネス
部門	313 南館5階
年度	2022
月	9

電気 CO2排出量 (累計)	自部門	会社全体
前年 (t)	23.4	454.4
今年 (t)	22.3	409.9
前年比	-4.7%	-9.8%



電気	ガス	水道	ガソリン	軽油	一般廃棄物
8,498 kw/h	246 ㎥	161 ㎥	1,405.2 ℓ	0 ℓ	kg

◆株式会社ＡＴビジネス（主な業務：間接業務　対象拠点数：５）

《環境活動取組事例》

３．一般廃棄物削減のための資源化対策（古紙100%資源化）
リサイクルできる古紙の分別を確実にしてもらえるよう推進してきました。
適切な分別ができるよう、更なる理解活動を進めていきます。

４．廃棄物の分別廃棄および排出量の把握
毎月の廃棄物の排出量を拠点別に把握し、office365にて公開しています。
これにより削減に向けた意識を向上できるようにしました。

会社	ＡＴビジネス
エリア	
エネルギー	一般廃棄物（kg）
年度	2022

データ未入力（水道は除く）	空白
データがゼロもしくは未使用	0

部門	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
南館5階													
白金													
円上													
ＧＬ	1,590.0	1,125.0	1,240.0	2,170.0	1,550.0	1,340.0	1,840.0	580.0	2,420.0	865.0	2,115.0	2,440.0	19,275.0
ＮＬ	460.0	390.0	590.0	470.0	435.0	645.0	580.0	390.0	405.0	440.0	480.0	112.0	5,397.0
港卸													
AAA													
高辻ＳＣ	1,080.0	1,080.0	950.0	915.0	810.0	1,045.0	1,070.0	1,055.0	940.0	970.0	1,060.0	1,280.0	12,255.0
使用量合計	3,130.0	2,595.0	2,780.0	3,555.0	2,795.0	3,030.0	3,490.0	2,025.0	3,765.0	2,275.0	3,655.0	3,832.0	36,927.0

５．緊急事態想定訓練とe-informationを通じた教育活動
オイル流出を想定した緊急事態訓練を対象拠点にて年２回実施し、突発的な事態の発生に備えました。
また、e-information発行時には従業員全員が確認できるよう拠点特性に応じoffice365トピックスへの掲示、回覧を行い、環境に対する理解活動を行いました。

６．スルー型洗車機特別仕様機設置による洗車水量軽減
グッドラック点検ラインで使用している洗車機の代替え時に、環境負荷の低減を考慮し、必要水量が半分でランニングコストが削減される機器に代替を行い、旧機器はBPセンターで再利用しました。

◆ＡＴグループ健康保険組合（主な業務：社会保険業務　対象拠点数：１）

EA21環境経営取り組み項目		単位	年度	使用量	対前年	CO_2排出量（t）
二酸化炭素排出量の削減	エネルギー使用量　（原油換算値）	Kl	2021	37,902	92%	—
			2022	34,941		—
	電気	kWh	2021	107,863	96%	48.1
			2022	98,756		46.0
	都市ガス	㎥	2021	4,039	96%	9.0
			2022	3,843		8.3
	LPG	㎥	2021	該当なし		
			2022			
	ガソリン	L	2021	2,065	115%	4.8
			2022	2,367		5.5
	軽油	L	2021	3,747	81%	9.7
			2022	3,067		7.9
	水道	㎥	2021	859	80%	0.5
			2022	714		0.4
	二酸化炭素排出量合計	t-CO_2	2021		94%	72.1
			2022			68.1

《プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量》
※産業廃棄物管理票（マニフェスト）を用いて前年度と今年度の排出量を記載（t）

	2021年度	2022年度
プラスチック使用製品産業廃棄物の排出量	0.81	0.87

◆ＡＴグループ健康保険組合（主な業務：社会保険業務　対象拠点数：１）

《環境活動取組事例》

１．ATG環境ガイドラインの遵守

①自主チェックの実施

フロンガス排出規制法基づき「（フロン排出抑制法に基づく）簡易点検記録簿」により、年４回（４月・７月・10月・１月）の点検を実施した

大型空調機器（GHP）については業者による定期点検も実施

＜フロンガス簡易点検記録簿＞

フロン排出抑制法に基づく第一種特定製品 簡易点検記録簿

冷凍冷蔵機器(フロン(冷媒))
(エアコン以外(機器))

第一種特定製品の管理者の氏名又は名称	ATグループ健保会館	法人にあっては、実際に管理に当たる者の氏名	総務課 土屋証樹	設置番号	冷 － 2
第一種特定製品の所在		機器の種類・型式番号等	エアコン 冷凍冷蔵 / フクシマガリレイ FMS-F15KS (業務用冷凍冷蔵庫 3001年製)	圧縮機を駆動する電動機の定格出力	0.35 kw
現在充てん されている フロン類の種類	HFC 代替フロン R-404A	充填されているフロン類の量 (回収量含む)	推定 約 kg	定期点検の頻度	法定上 定しない / 3年に 1回 / 1年に 1回以上

点検実施年月日	点検を行った者の氏名	検査を行う事項 異常振動等	接続の緩み、変形、腐食、摩耗、その他の劣化	油にじみ	熱交換器の 曲がり等	(冷凍冷蔵機器の場合) 金属、陶磁器その他の容器に封入した試料又は除列する場所の温度	点検の結果 フロンの漏えい又は故障等の有無 有の場合はその概要	備考
2021/7/15	土屋証樹	有・無	有・無	有・無	有・無	25 ℃	無	2021/6/11納品
2021/10/15	土屋証樹	有・無	有・無	有・無	有・無	20 ℃	無	
2022/1/28	土屋証樹	有・無	有・無	有・無	有・無	20 ℃	無	
2022/4/23	土屋証樹	有・無	有・無	有・無	有・無	21 ℃	無	
2022/7/29	土屋証樹	有・無	有・無	有・無	有・無	26 ℃	無	
2022/10/29	土屋証樹	有・無	有・無	有・無	有・無	20 ℃	無	
2023/1/14	土屋証樹	有・無	有・無	有・無	有・無	20 ℃	無	
		有・無	有・無	有・無	有・無			
		有・無	有・無	有・無	有・無			
		有・無	有・無	有・無	有・無			

※ 定期点検、故障等に伴う臨時点検、修理および整備時のフロンの充填・回収等の記録については、別途記録簿(ログブック)を作成し、保存。

②ATグループCSR推進部EMS推進課作成の環境マネジメント推進ツール

各拠店に配布済みの環境マネジメント推進ツールの「EMS運用ファイル」「記録・保管ファイル」に上記チェックの記録を綴った

＜EMS運用ファイルと記録・保管ファイル＞

◆ＡＴグループ健康保険組合（主な業務：社会保険業務　対象拠点数：１）

《環境活動取組事例》

２．「省エネルギー法」対象の検証（電気、ガス、水道および燃料使用量の把握）
ATGポータルサイトにおいて、電気・ガス・ガソリン・軽油の使用量の把握を行った

＜エネルギー集計表＞

３．「省エネルギー」対策
①空調設備スイッチに「夏は28度・冬は20度」、照明スイッチや水道周りに「節電」「節水」を促すプレートを貼り徹底

＜節電・節水を促すプレート表示＞

◆ＡＴグループ健康保険組合（主な業務：社会保険業務　対象拠点数：１）

《環境活動取組事例》

３．「省エネルギー」対策

②洗浄便座や冷蔵庫は、スイッチ付きコンセントを付けており、こまめに電源をOFFし節電に努めた

<スイッチ付き電源タップ>

③アイドリングストップは、社用車のほとんどがハイブリッドまたはアイドリングストップ車のため実施できた

<社用車・アイドリングストップ車>

◆ＡＴグループ健康保険組合（主な業務：社会保険業務　対象拠点数：１）

《環境活動取組事例》

４．「一般廃棄物削減」のための資源化対策（古紙の100%資源化）

①株式会社宮崎にて機密文書と資源ごみのリサイクルを実施

＜機密文書回収BOX＞

＜資源ごみの回収箱＞

②正しいごみの分別方法の資料を回覧・説明

＜雑がみ分別表＞

＜リサイクルできない紙類と異物＞

◆ＡＴグループ健康保険組合（主な業務：社会保険業務　対象拠点数：１）

《環境活動取組事例》

５．「電気」に関わるCO_2排出量の把握

ATGポータルサイトにおいて、環境ポータルサイトを使用し、毎月前年同期との比較・評価を行った

＜エネルギー統計表＞

エネルギー使用量　過去実績

← 戻る

会社：ＡＴグループ健保組合

部門：ZZZ ATG健保会館

年度：2022

※前年比は前年との増減率です

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
電気	使用量	前年	7,136.0	7,536.0	8,967.0	11,157.0	10,791.0	8,615.0	8,418.0	8,490.0	8,875.0	10,989.0	9,218.0	7,671.0	107,863.0
	(kw/h)	今年	7,155.0	7,083.0	9,031.0	10,663.0	10,890.0	9,712.0	7,388.0	7,619.0	9,707.0	10,199.0	9,309.0		98,756.0
		前年比	0.3%	-6.0%	0.7%	-4.4%	0.9%	12.7%	-12.2%	-10.3%	9.4%	-7.2%	1.0%		-8.4%
	CO2排出量	前年	3,289.7	3,474.1	4,133.8	5,143.4	4,974.7	3,971.5	3,880.7	3,913.9	4,091.4	5,065.9	4,249.5	3,536.3	49,724.8
	(kg/kwh)	今年	3,069.5	3,038.6	3,874.3	4,574.4	4,671.8	4,166.4	3,169.5	3,268.6	4,164.3	4,375.4	3,993.6		42,366.3
		前年比	-6.7%	-12.5%	-6.3%	-11.1%	-6.1%	4.9%	-18.3%	-16.5%	1.8%	-13.6%	-6.0%		-14.8%

６．廃棄物（産廃および一廃）の分別管理

①ごみの分別回収箱を利用し、分別方法も掲示して、正しい分別・廃棄を行った
医療廃棄物は専用回収箱を使用

＜可燃ゴミ・プラスチック・ペットボトル等の回収箱＞

◆ＡＴグループ健康保険組合（主な業務：社会保険業務　対象拠点数：１）

《環境活動取組事例》

６．廃棄物（産廃および一廃）の分別管理

①ごみの分別回収箱を利用し、分別方法も掲示して、正しい分別・廃棄を行った医療廃棄物は専用回収箱を使用

＜医療廃棄物（注射針）専用回収箱＞

②株式会社ATグループとともに産廃処理業者の現地確認も行った

＜産廃処理業者現地確認先＞

◆ＡＴグループ健康保険組合（主な業務：社会保険業務　対象拠点数：１）

《環境活動取組事例》

７．その他（社会貢献活動）

①まちなかクリーンデイ

社会貢献活動の一環として、毎週金曜日（非常事態宣言時を除く）、健保会館周辺の清掃活動（まちなかクリーンデイ）を行った

<街中クリーンデイ>

②「応援定期」によるこどもの自立支援

大和ネクスト銀行の「応援定期預金」により、別途積立金の利息の一部から、NPO法人「こどもサポートネットあいち」への支援を実施